

## はじめに

このたび、農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会報告書を受け、設計プロポーザルで選考された川原田康子氏の協力の元で、本年4月より基本設計に着手し、10月に設計が完了しました。この基本設計は建設基本計画に沿って作成されており、現在まで提起された様々な施設機能を有機的に連携させ、交流という価値をいかに生み出していくかという点に主眼が置かれています。

この基本設計について、多くの市民の皆様から意見をいただきたく、今までの経過を含め、基本設計概要版を作成いたしました。

お寄せいただいた意見を参考に再度点検を行い、今後の実施設計に生かすとともに、事業を進めてまいります。

## 武蔵境駅前に武蔵野プレイスが誕生します

武蔵野プレイスは、「武蔵境のまちづくり推進」の一環として「地区図書館をはじめとした知・文化・自然・青少年をテーマとする文化施設」として整備されるものです。

図書館、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させた「知的創造拠点」です。

公園のように気軽に多くの市民が集い、出会い、対話しやすい場を設え、それぞれが持っている知識や知恵や経験を共有・交換しながら、知的創造や交流を生み出し、地域社会の活性化を深められるような新しい時代の公共施設をめざしています。

ここでは、このような施設のあり方を「プレイス」（場）と名付け、同時に施設の名称を「武蔵野プレイス」（仮称）としています。



武蔵野プレイス  
(新公共施設)

敷地北側半分は恒久的に公園として残すため都市計画公園として都市計画決定されています。

## 武蔵野プレイスはまちづくりの核となります

武蔵野プレイスは、武蔵境のまちづくりの核となる施設です。  
駅前立地を生かし、公園と一体となった武蔵野プレイスができることによっ  
て、周辺施設が有機的に結び付けられます。  
また、駅前から続く緑豊かなオープンスペースをつくり出します。

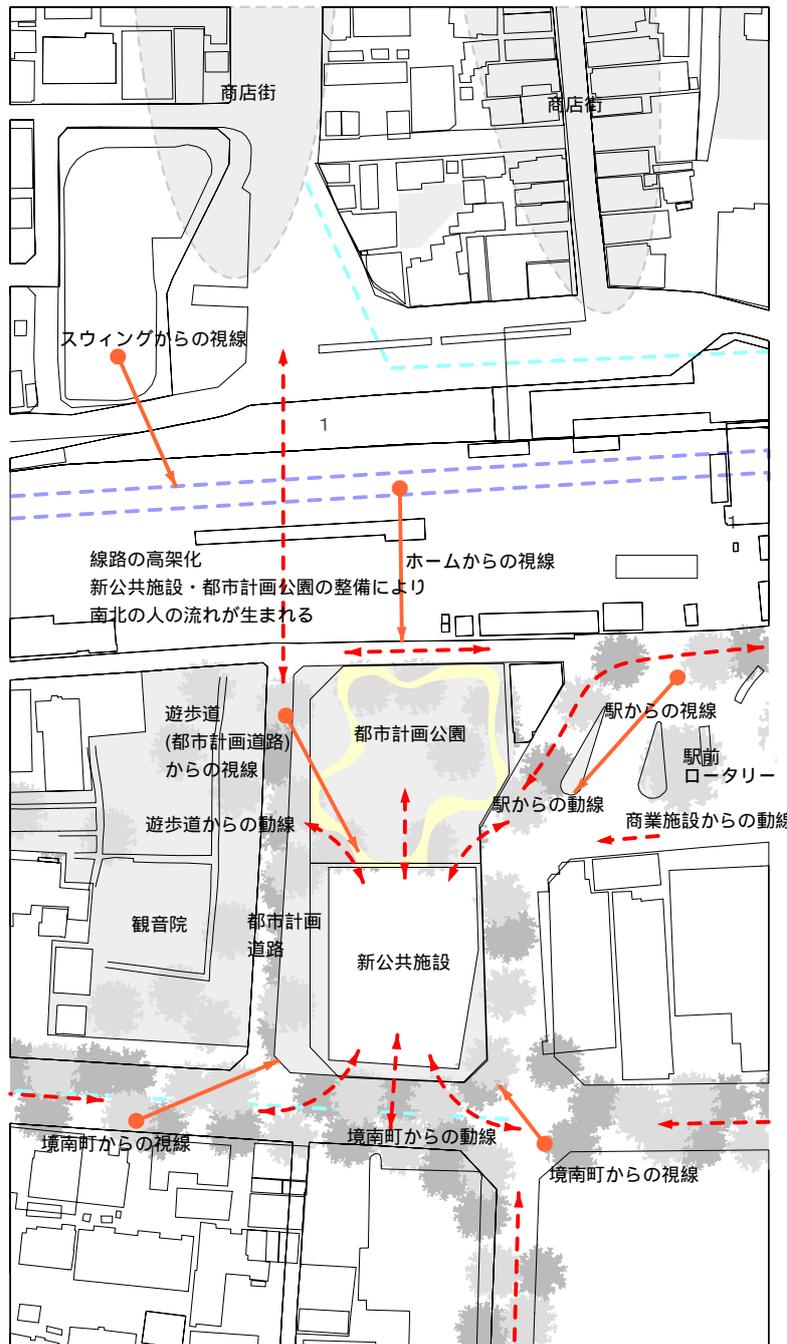
駅南の武蔵野プレイスと  
駅北のスイングとが相互  
補完的に連携し、まちづ  
くりの核となる

新しい駅舎との連携によ  
り、駅の南北の人の流れ  
をつくり出す

寺院の緑との連続

建物を後退させ、既存の  
樹木を保存する

境南町からの人の流れを  
導く



新駅舎と共に駅北口の商店  
街との結び付きを強め、人  
の還流を導く

駅プラットフォームや電  
車の車窓から、緑に囲ま  
れた施設が見え、武蔵野  
市のランドマークとなる

駅南口ロータリーと公園  
との連携により、オープ  
ンスペースの広がりと連  
続する緑をつくり出す

建物の低層化により、周  
辺の建物よりも一段低い  
エリアが形成され、公園  
と一体化した公共空間と  
なる

## 武蔵野プレイスは新しい「知」の施設です

武蔵野プレイスは

- 1) ライブラリー（「図書館」機能）
- 2) フォーラム（「会議・研究・発表」機能）
- 3) スタジオ（「創作・練習・鑑賞」機能）
- 4) 市民プラザ（「交流」機能）

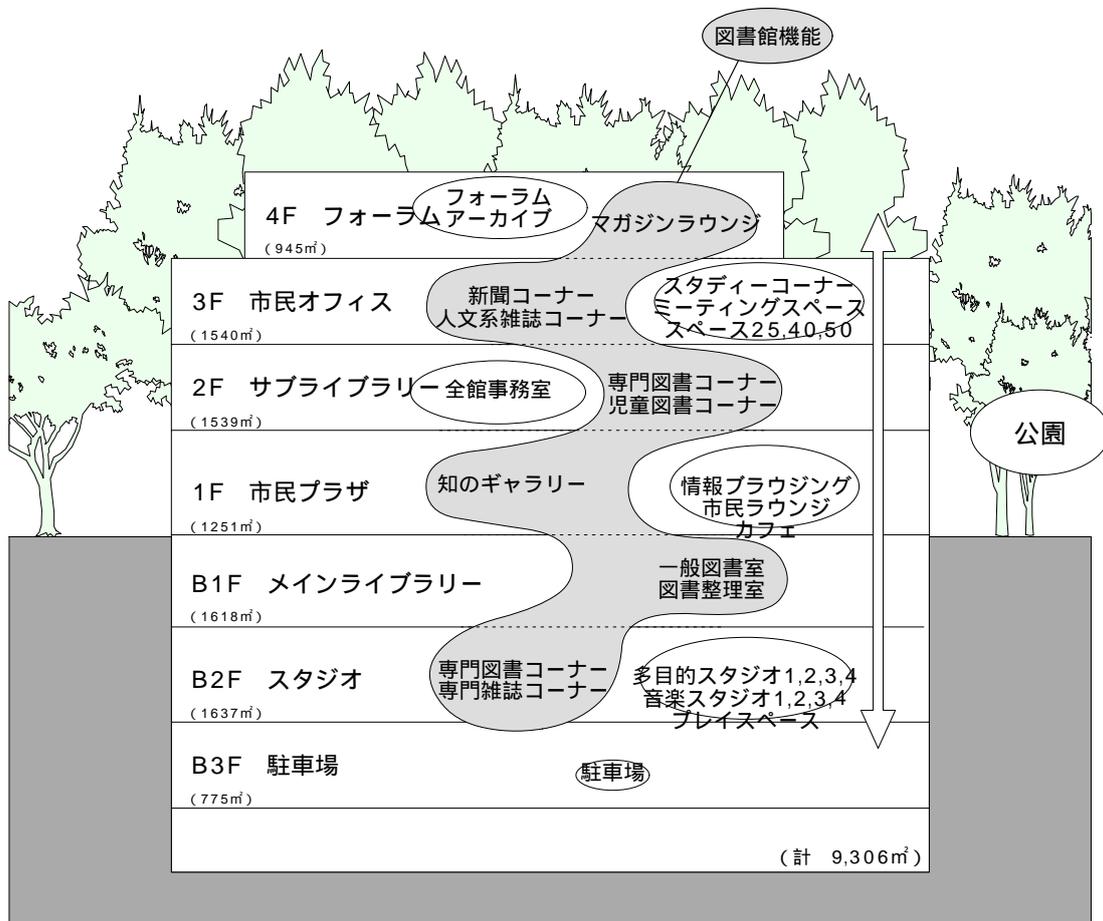
という4つの施設機能が複合する「知的創造拠点」です。

メインとなる図書館機能は、吉祥寺図書館と同等以上の規模を持ち、蔵書数約15万冊を予定しています。雑誌の豊富さ、館の機能に関連した特色ある専門図書の配置等によって、規模以上に魅力的な施設となることをめざしています。

地域固有の情報ストック・交換の場、ビジネス支援、生涯学習の支援等を視野に入れた多様な機能を備えています。

読書や調べものにとどまらず、ミーティング等の共同作業の場や、印刷等の機能が連携し、情報発信の主体としての市民を支援します。

スタジオ機能を備えることにより、アートやパフォーマンス的な分野にまで広がる活動領域をカバーし、より多様な活動の交流を促します。



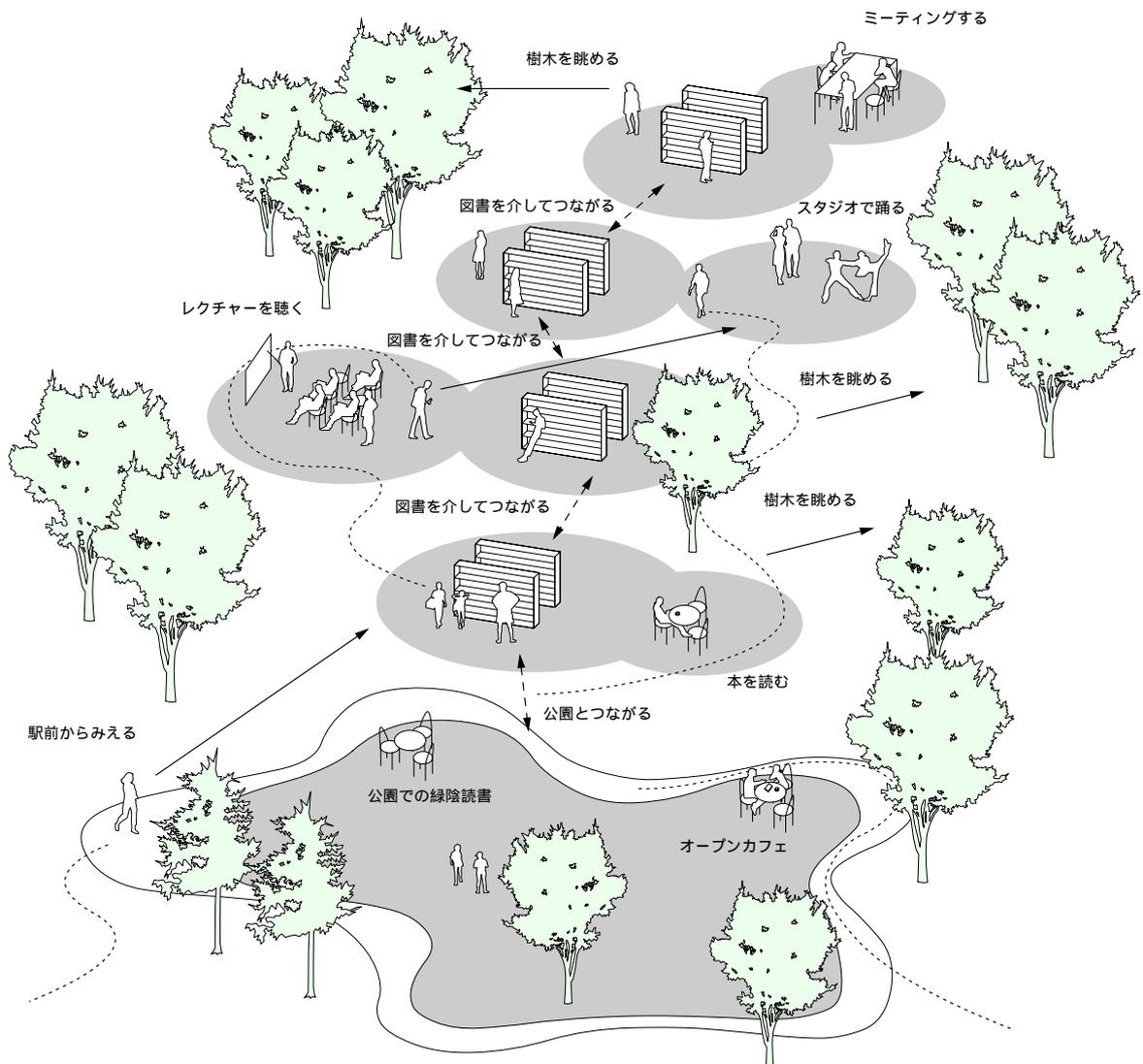
## 武蔵野プレイスは知の森をめぐり歩く回遊式の施設です

武蔵野プレイスでは全階にわたって図書館機能を配置し、それを媒介として各機能がゆるやかにつながるような施設構成となっています。

要所要所にはバラエティに富んだ閲覧コーナーやラウンジスペースが点在し、偶発的な交流の発生を促す場を設えます。

館内の本は閲覧スペースのほか、館内のどのスペースにも、自由に持ち込み可能とし、カフェやラウンジでの読書、屋上庭園での緑陰読書をはじめ、多様な活動が広がるように配慮しています。

館内は通常の建築物のように階ごとに分かれるのではなく、3つの階段と幾つもの吹き抜けによって上下階が次々と視覚的につながっていく構成となっており、隣接するエリアへ自然に移動（ブラウジング）していけるようになっています。その様子はまるで「知の森の逍遥」という趣を感じさせるものとなります。



## 武蔵野プレイスは環境を大切にします

### 環境への配慮

武蔵野プレイスは、地熱や太陽光、水蓄熱、雨水の再利用、打水散水など自然のエネルギーを多角的かつ巧みに利用し、環境にやさしい建築をめざします。また、必要な箇所に最小限の照明や空調を提供する環境型照明や領域空調、ハイブリッド構造等の新しい技術を導入し、これからの時代にふさわしい総合的な環境配慮型の建築をめざします。

### 公園との一体化

建物の地下の積極的な利用及び低層化、最上階のセットバック、建物の緑化等により、北側の公園部分との一体化を図り、駅前の公共空間の広がりや緑のつながりをつくり出していきます。

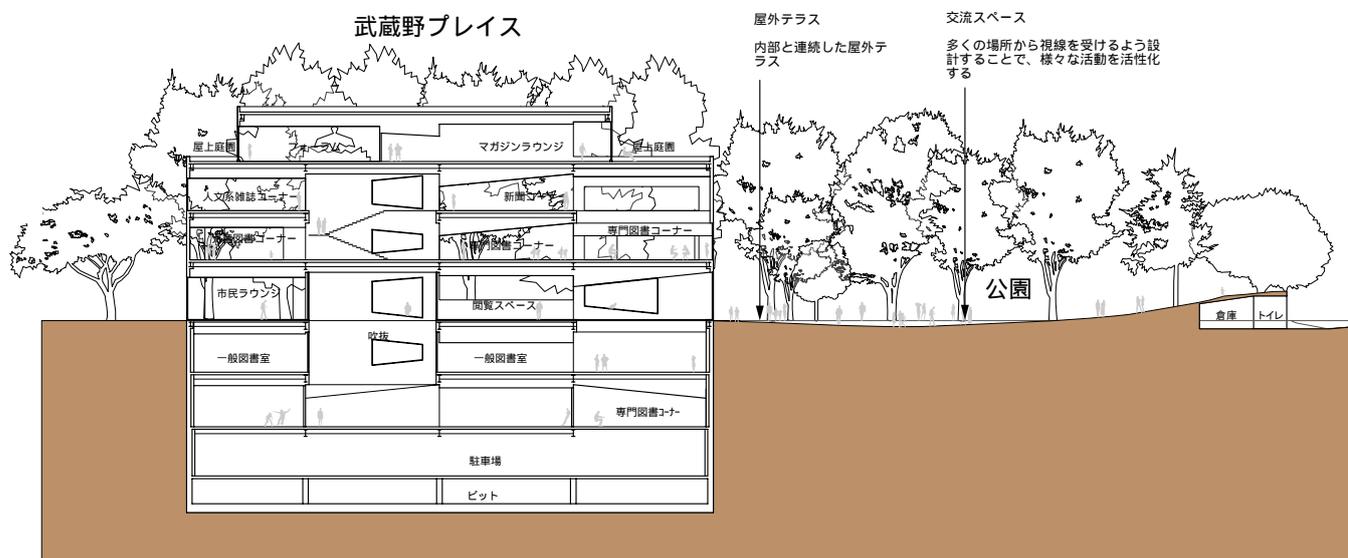
吹き抜け等を通して地下空間にも適度な自然光や樹木の緑を取り込みます。

### 地下空間のメリットを生かす

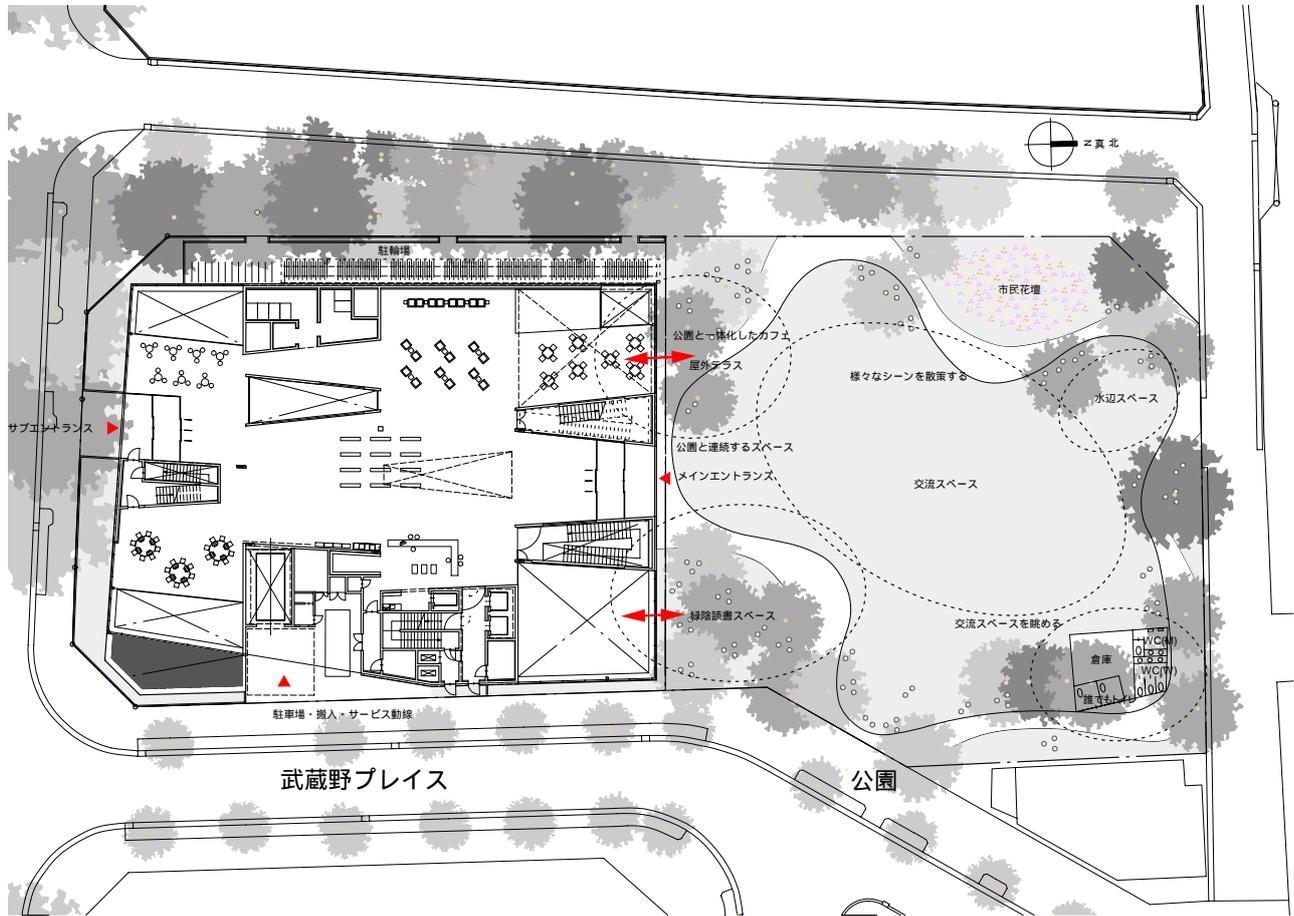
通年にわたって温度の安定した地下空間は、環境にやさしい建築に有効にはたります。また構造的にも杭が不要となると共に地震力を吸収できる等のメリットがあります。

### 百年建築

公共建築として長く人々に愛され利用されるようおおらかで心地のよい場をつくりだし、世代を超えて受け継いでいく魅力を持つものとして整備していきます。百年を視野に入れた耐久性の高い建物とすることで、長期的なライフサイクルコストの低減や解体に伴う廃材の発生を抑えることが可能となります。



## 武蔵野プレイスは公園と一体化した市民の憩いの場です



中心市街地活性化基本計画（平成11年3月策定）により、「街のシンボルとなり買い物や散歩をはじめ、祭りやイベントなどで人がたくさん集まる駅前の緑豊かな広場公園を整備する」と位置付けられており、人々が集まり交流するスペースとしての機能が求められています。公園でのイベントに関連して、建物のスペースを利用して展示などを行ったり、カフェや屋外緑陰読書のスペースを公園に設けたり等、建物と公園は環境として連続するだけでなく、機能的にも相互に補完し合いながら利用できるように整備を行います。

